

法性阿闍梨日順『内過去帳』にみる衆生と社会

本間俊文（立正大学）

本発表では、西山本門寺第 18 世法性阿闍梨日順（1602-1688）が 17 世紀前期に江戸上行寺を拠点としていた頃に編纂した『内過去帳』に着目し、記載される物故者について多角的な分析を行い、日順および上行寺を支えた物故者（衆生）の実像解明と信仰圏の把握を試みるものである。

まず、『内過去帳』記載物故者の没年分布について検討する。慶長元（1596）年から正保 4（1647）年に至る約 50 年間で 370 件（考察対象全体（749 件）の約 49%）の没年が確認でき、うち元和・寛永年間の物故者が 351 件と約 95%を占めている。本過去帳記載の物故者は、基本的に中世末から近世初期まで生存した上行寺有縁の僧侶・檀信徒およびその関係者と考えられる。

次に、物故者の所在地について検討する。物故者の所在地と思われる記事は 183 件（考察対象全体（749 件）の約 24%）確認でき、そこから 48 の地域名が見出される。特に武蔵国に属する地域は 38 地域見られ、件数では 183 件中 159 件と約 89%を占めている。これらは現行の中央区と千代田区にほぼ集中していることが窺える。この結果から、上行寺が八丁堀に所在した時の活動を支えた信仰圏がこの一帯にあったと理解できる。

続いて、物故者の性差の有無について検討する。物故者の性別が読み取れる記事は 416 件（考察対象全体（749 件）の約 56%）確認でき、男性 223 件・女性 193 件と、大差は認められない。確認できる範囲では、物故者の割合が男女どちらかに大きく偏っているわけではないと言えよう。

続いて、物故者の社会的身分構成について検討する。記事から身分が窺える物故者は 369 件（考察対象全体（749 件）の約 49%）見出され、それらはおおよそ僧侶関係・武家関係・公家関係・商人関係・職人関係・下人関係の 6 種に分類することができる。

僧侶関係と思われる物故者は 125 件確認できる。全体的に見て、上行寺と勝劣派触頭の芝長応寺関係者の件数が多いことが窺える。また、武家関係と思われる物故者は 178 件確認できる。この中には、大名（小笠原秀政、酒井忠行、酒井重忠）・旗本（初代三浦按針、二代目三浦按針）・代官（井出正次）等の有力武士も物故者として記載されるが、全体的には武士の親族や縁者が大半を占めている。なお、『内過去帳』の記事から、これまで明らかでなかった二代目三浦按針の没年月日が新たに判明した。さらに、少数ではあるが商人関係と思われる物故者が 25 件、職人関係と思われる物故者が 15 件、下人関係と思われる物故者が 25 件確認できる。

本考察を通じて、『内過去帳』編者の日順の活動を直接支えた僧俗の姿と、上行寺における当時の信仰圏がある程度明らかになり、近世初期日蓮教団が直面した衆生の実例を示すことができた。その一方で、物故者個々のより詳細な事蹟検討や、桜田・伊皿子所在時の上行寺の信仰圏の検討、さらには本過去帳記載の物故者が、日順や上行寺とどの程度の信仰的關係を有した存在であったのか等の点については、考察が及ばなかった。これらの点は今後の課題としたい。〔1216 文字〕

キーワード：日順、西山本門寺、内過去帳